

板橋区における障がい者虐待の通報等受付状況

※令和3年度については令和4年2月末現在の件数となります。

1 受付場所別の内訳

受付場所	令和2年度	令和3年度
虐待防止センター	15	21
福祉事務所（3ヶ所）	1	6
健康福祉センター（5ヶ所）	0	3
障がい政策課	8	11
予防対策課	0	0
その他（東京都、警察等）	7	0
合 計	31	41

2 相談・通報・届出者の内訳

相談・通報・届出者	令和2年度	令和3年度
障がい者本人	8	13
家族・親族	3	2
近隣住民・知人	0	3
福祉サービス関係者	10	16
医療関係者	2	2
行政・教育機関	4	3
その他（労働局、警察、元支援員等）	4	2
合 計	31	41

3 被虐待者の障がい別内訳

※ 通報時本人より申告のあった種別（重複障がいは、それぞれに計上）

障がい	身体		知的		精神(発達含)		不明	
年度	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3
人数	6	8	12	21	13	17	0	0

4 虐待者の内訳

虐待者	令和2年度		令和3年度	
	総件数 (実件数)	虐待認定 件数	総件数 (実件数)	虐待認定 件数
養護者	13	5	21	2
障害者福祉 施設従事者等	12	2	13	1
使用者	3	2	1	0
その他	3		6	
合 計	31	9	41	3

5 令和3年度（8月以降）通報・相談のうち、虐待認定したケース事例※抽出（虐待程度については、「資料4-2 虐待の程度一覧表」参照）

NO	虐待種別		内容	状況・対応等
1	養護者	ネグレクト 経済的	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナで施設通所できない期間に体重が大幅に減る。 ・家庭内で風呂に入れておらず、衛生環境状態が劣悪。 ・適切な食事が摂れず、栄養不良な状況。 ・定期的な通院、服薬ができていない。 ・本人のお金を使い込んでいる可能性有。 <p>…など</p>	<p>【緊急性：有】</p> <p>通所先において、生命の安全性が確保されているが、大幅な体重減少、衛生状況が劣悪、服薬管理ができない等の状況が確認されたため、緊急性有りと判断。</p> <p>【虐待認定：有】</p> <p>養育者の精神疾患、物忘れ等の状態から、養育困難と判断。また、本人通帳が残高0円になっており、養育者からの聴取でギャンブルや借金返済に使用しているとして、ネグレクト（放棄・放置）、経済的虐待を認定する。</p> <p>【虐待程度：最重度】</p> <p>生命、心身の健康に危険な状態が生じており、年金搾取により、本人の多額の食費等の滞納など、生活維持ができないため、「分離」や「保護」を検討。</p> <p>【対応】</p> <p>親族協力のもと、施設等を探し、受入れが了承されたため入所。同時に養育者への支援について、関係機関と協議。対応を依頼。本人に振り込まれる年金、手当をすべて養育者が使用してしまうため、後見人を申し立てた。</p>
2	社会福祉施設 従事者等	身体的 心理的	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が体調管理を理由とし、本人の意に反して、徒歩数時間の通所等を強いる。 ・職員が携帯電話を本人の意に反して預かる。 	<p>【緊急性：有】</p> <p>生命の安全性は確保されているが、本人から辛いという主訴を確認。また、聞き取り聴取後、職員が携帯電話を本人の意に反して預かる行為を確認したため、緊急性有りと判断。</p> <p>【虐待認定：有、合わせて不適切支援有】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体調管理について、徒歩を強いる事実は確認できなかったものの、長時間にわたる歩行等を行う支援内容は、過度な本人負担となっているため、不適切な支援と判断。 ・意に反して携帯電話を預かる行為は、本人の行動規制など基本的人権を侵害する行為につながりかねないとし、虐待有りと認定。

			<p>【虐待程度：重度～中度】</p> <p>本人の自己効力感※が低下しており、生活に著しい影響が生じているとし、早期に福祉サービスの導入等「集中的援助」を検討。</p> <p>※自己効力感-目標を達成するための能力を自らが持っていることと認識すること。</p> <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人意向に基づき、当該福祉サービス事業所の利用先を変更する。 ・事業所に、以下の改善内容を区に報告するように依頼した。 <p>①体調管理については、必要に応じて、第三者の意見を取り入れた支援策の検討を行うこと。</p> <p>②必要があつて携帯電話を預かる際の基準を取り決めること。</p>
--	--	--	---

6 令和3年度（8月以降）通報・相談のうち、虐待認定以外のケース事例※抽出

NO	虐待種別		内容	状況・対応等
1	養護者	心理的	<p>・精神疾患を患い、働けなくなった。通院費用を養育者にお願いすると「お前にいくらかかっているのか」「なおらないなら行かなくてよい」等の暴言・罵声を浴びせられる。</p> <p>・それ以外に自由に使えるお金がなく、養護者から金銭面で援助を受けないといけなが、そのたびに暴言を言われ、疲れた。死にたい。</p> <p>…など</p>	<p>【緊急性：有】</p> <p>「もう死にたい。」等の主訴。養護者との話し合いが早急に必要と判断し、緊急性有と判断した。</p> <p>【虐待認定：虐待有無判断はしない】</p> <p>今後について本人、養護者に聴き取りを実施。養護者自身が、コロナ状況下の影響で、経済的に著しく困窮している状況であることを確認。本人は年金を受給しておらず、収入源が全くない状態。養育者、本人ともに経済的、精神的に余裕がない状態は生活困窮が根底にあるとして、虐待有無判断はしない。</p> <p>【対応】</p> <p>障がい年金の受給手続きを行い、受給開始されるまで、本人の意向により、無料低額提供施設（「生活保護法」にもとづく保護施設）等の公的制度を活用することとした。年金受給開始を目安に、一人暮らしやグループホームの支援に繋げていくこととなった。</p>
2	社会福祉施設従事者等	経済的	<p>職員が利用者から、欲しいものを買ってあげるからと3万円程度のお金を預かったが、買い物されないうまま半年程度が経過している。</p>	<p>【緊急性：無】</p> <p>本人生命の安全性は確保されているため、緊急性無しと判断。</p> <p>【虐待認定：虐待認定に至らず、不適切支援と判断】</p> <p>事業所から既に金銭が返金されていることを確認。事故報告書、当該利用者の金銭管理規定、利用者預り金の事務処理等の資料提出を求めた。結果、長期にわたり利用者の金銭を職員が手元で保管していたことについて不適切支援とした。</p> <p>【対応】</p> <p>今回の事案について、職員が利用者の金銭管理をする際の取り決めを見直し、職員会議等を通じて、適切な金銭管理の周知徹底を行ったことを確認。金銭管理を怠ることは、経済的虐待につながることを、場合によっては、刑事事件に発展する恐れがあることを施設内で周知徹底を図るように伝えた。</p>